

ほけんだより



病児・病後児保育「みどり」
令和8年4月発行

今月のテーマは「**子どもの事故防止**について」です！

子どもは好奇心が強く、大人が想像もできないような遊びや行動を起こします
事故の内容は子どもの発達年齢によって特徴があります
成長の中で、いつ頃、どんな事故が起こりやすいか知っておくことは、
事故予防のうえで大切です

《～1歳ごろ》

まくらや柔らかいマットに顔が埋もれてしまう⇒かためのマットなどを使用する
ベビーベッドからの転落⇒ベッドの柵は必ず上げる

ひとりでソファ、椅子などに寝かさない

興味のあるものを口に入れるようになり、

タバコやボタン電池などを飲み込んでしまう⇒危険なものは手の届かない場所へ置く
ポット、鍋、炊飯器の蒸気を触る、ひっくり返す⇒テーブルの端にもものを置かない

キッチンに入らないように柵などをつける



《～2歳ごろ》

つまずいたり、階段やイスから転落したりする⇒階段や段差のある所には柵など

転落防止対策をする

浴槽や洗濯機に落ちて溺れる⇒わずかな量でも残し湯はしない

浴室に鍵をする 入浴時、目を離さない・ひとりにしない



《幼児期》

ベランダや階段などからの転落⇒箱、家具など踏み台になるようなものを

ベランダや窓際に置かない

水遊び中の事故⇒水遊び時はライフジャケットなどをつける・目を離さない

自転車の補助いすからの転落・自転車ごとの転倒⇒補助いすに乗せるときは自転車専用

ヘルメットを着用させる

道路への飛び出し⇒手をつないで歩く



事故を起こしやすい状況を理解し適切な対策をすることは事故予防に必要なことですが、
大人だけではなく、子どもにも安全な行動を教えることも大切です